

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第43号

発行年月 2022年2月
発行所 岡山県訪問看護ステーション
連絡協議会
〒700-0805 岡山市北区兵団4-39
岡山県看護研修センター3階
TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
http://okayama.houmonkango.net/
E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
発行責任者 江田 純子

令和四年新年あいさつ

一般社団法人
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会



会長 江田 純子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は当協議会の活動に對しまして多大なるご支援を頂戴し、厚く御礼申し上げます。

皆様には、COVID-19対策にご尽力されながら、在宅療養者と家族の穏やかな生活を支え、命を守るため訪問看護実践に務めておられることに對し敬意を表すと共に感謝申し上げます。

この2年間、ICT活用による地区活動やWEB会議を活用したオンライン研修が広がり、移動時間の短縮や研修が受講しやすくなるなど業務改善の効果が見え始めています。目指すところは、「晴れやかネット拡張機能ケアキャビネット」を日常業務で活用し、地域の訪問看護事業所間及び関係機関とのネットワーク強化を進め、業務が継続できる体制を作ることです。ICTへの苦手意識もあると思いますが、この機会に一緒に取り組んでまいりましょう。

今後、現場の声をお届けいただき、一緒に訪問看護の課題に取り組み、訪問看護事業が継続できるよう、努めて参りますので、よろしくお願ひ申し上げます。

「若林教育基金」創設

～研修受講時に教育資金(20万円)を助成します!～

若林敏子様(元岡山県看護協会会長、元岡山県訪問看護ステーション連絡協議会会長)からの寄附金を財源とし、訪問看護ステーションの看護職の質の向上を図るため、専門看護師・認定看護師・特定行為研修などの研修受講時に教育資金(1人20万円)を支給します。

※詳細(対象者の要件、申込方法など)については、募集要項による(令和4年4月から募集開始予定)



西尾総合印刷株式会社

代表取締役 西尾 源治郎

西尾総合印刷株式会社は大正11年に岡山駅前創業し、おかげさまで2022年2月11日をもちまして100周年を迎えることができます。永きにわたり地元岡山でこうして仕事をさせていただけたことは、ひとえに地元の皆様のおかげです。

誠にありがとうございます。

弊社では紙にこだわることなく、お客様の利益を上げる為のお手伝いをさせていただくべく、日々情報収集・マーケティング研究に務めております。また再生紙や大豆インクの普及、また必要なものを必要な量だけ印刷をするという事などのSDGsを推進しております。

これからも次の100年を目指す為、一歩ずつ歩を進めてまいります。

最後になりますが、岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の益々のご発展を祈念しております。

賛助会員からの メッセージ

中村建設株式会社

代表取締役 中村 浩巳

弊社は昭和34年に創業し、半世紀以上に亘って建設業に携わって参りました。公共建築、民間住宅、病院、商業店舗、土木、電気、設備など幅広い分野でお手伝いさせて頂いております。

先の見えないコロナ禍、今後、在宅療養のニーズが益々高まると思われれます。最後の場所になるかも知れないご自宅を、最高の環境に出来ないか?それは患者さんのため、介護をする家族のためでもあります。そのため、患者さん、介護の方も最高の場所をご提案し、さらに通常の生活の中でも家族が人生を楽しめる空間づくりが出来ないかと考えております。

訪問看護ステーション連絡協議会の更なるご発展に期待しております。

医療的ケア児の支援について

岡山県医師会
常任理事 内田 耕三郎

近年我が国では周産期死亡が減少し、世界最高水準の小児科医療のおかげで医療的ケア児（以下児とする）が増えており、在宅の人工呼吸器装着児も増えている。児の約半数は未就学であるため、主たる保護・介護者である母親の社会参加や就業の妨げ、さらには精神的・経済的負担となっている。訪問看護は在宅医療における多職種協同の中心的存在である。訪問看護が児の看護・介護に積極的に関与することで、母親や家族に対する大きな支援になる。「医療的ケア児支援法」が成立し、児が適切な支援を受けることができるように国や地方自治体の責務が決められた。これからは、児と家族が安心して在宅で過ごせるように、訪問看護の一層の活躍が期待される。

令和3年度岡山市公衆衛生功労者表彰

令和3年度
岡山市公衆衛生功労者表彰



【保健所長表彰 地域医療事業功労】

🌸 岡山市医師会訪問看護ステーション 佐藤 理佳
この度は、岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の推薦を受け岡山市公衆衛生功労者表彰を受賞しましたこと、心より光栄に存じます。

私は、前職場も含め、岡山市内の訪問看護ステーションで、訪問看護師として20年弱勤務させていただいております。その間で、数えきれない程の多くの人に出会いました。利用者さま、そのご家族、主治医、ケアマネジャー、ヘルパー、そしてステーションのスタッフです。

その方々からは、多くのことを教わり、また支援も受け、現在まで仕事を続けることができました。今日の自分があるのは、その方々のおかげとっております。

現在、コロナ禍で在宅医療や在宅看護への注目が集まり、今まで以上に在宅療養への期待値は、上がっていると考えられます。

今後とも、訪問看護師として、活動の場を広げ、また多くの人達のお力添えを頂きながら仕事に邁進していきたいと思っております。

【市長表彰 公衆衛生事業功労】

内田 耕三郎 先生
おめでとうございます

🌸 西大寺訪問看護サービスセンター 中島 貴子

この度は、岡山市公衆衛生功労賞をいただくことができ、大変光栄に思います。

在宅のことが全くわからないまま、夜勤のない仕事をしたと思い現在のステーションに就職し、19年が経ちました。これまで訪問看護を続けることができたのは、利用者や家族の方々の温かいお言葉、共に働くスタッフの支え、また各関係者の方々のご指導やご協力のおかげと心より感謝いたします。

これからもわたくしのできることは、微力だと思いますが、今までの経験を活かし在宅看護に関わっていきたいと思っております。

ありがとうございました。

🌸 岡山しげい訪問看護ステーション 能勢 由江

この度、岡山市公衆衛生功労賞者表彰をいただきましたことを誠に光栄に存じます。

平成10年より倉敷で訪問看護に初めて携わり、その後ケアマネを兼務しながら、平成16年より現在の岡山市の事業所で訪問看護師やケアマネとして少しでも地域の方々の生活の支えになればと微力ながらも携わってきました。これまで続けてこれたのも利用者、家族の皆様、連携させていただいた多職種の皆様、先輩の方々、スタッフの方々のご指導、ご協力のおかげと深く感謝しております。今後ますます地域における訪問看護師の活躍が期待されております。微力ではありますが、今後も皆様と協力し、地域包括ケアの充実が図れるよう一層努力していきたいと思っております。



精神科訪問看護への期待

メンタルセンター岡山(岡山県精神保健福祉センター)
所長 野口 正行

昨年度から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」(以下、「にも包括」)の構築に関する厚労省の検討会が開催され、「にも包括」が注目を集める機会が増えてきた。将来の「地域共生社会」を見据え、精神科固有の長期入院者の地域移行支援などの課題を踏まえた形で包括的支援体制を作ろうとするものである。その中でも、在宅医療の充実という点で、訪問看護は核となる役割を持つ。精神障害を抱えた方などアプローチには工夫が必要な方も多いが、病を抱え、生活に困難をきたした人たちが地域で生活をしていくのを支える訪問看護は、これからの地域共生の時代になくてはならない「社会共通資本」だと思っております。これからの発展に期待したい。

精神科訪問看護研修を受けて

創心会訪問看護リハビリステーション
参加者 吉川 明希

作業療法士として参加して看護職が就労支援に関わっていることにまず驚きました。自立支援はリハビリ職の領域と思っていましたが、患者さんがこれから地域で自立して生活するためにチーム連や専門職の枠に捉われない関わり方が必要だと感じました。

身体機能面でのリハビリを中心に入っている方でも、精神面の問題を持つケースもあり、関わり方と支援を以前より意識するようになりました。

管理者 榎原 実知子

当ステーションでは、精神科訪問看護の経験者が少なく不安も大きい状況があり、精神科訪問看護研修を受講しました。研修を受講したことで、精神科訪問看護の対象者だけでなく、精神的な課題をもつ利用者さんにも積極的に関わっていけるようになったと感じています。

「令和3年度訪問看護講師人材養成研修会」を受講して

訪問看護ステーションあおぞら
管理者 塚本 晴美

この度、令和3年度訪問看護講師人材養成研修会（全国訪問看護事業協会主催／厚労省委託）を受講しました。本研修は、「自地域において講師人材になる事ができる」「自地域において訪問看護の人材確保、推進・普及に関する研修の企画・運営ができる」人材を増やすことを目的とし、受講後に地域における訪問看護人材の確保・育成に関する事業に関わることを目指しています。

今回、岡山県から4事業所の管理者が受講しました。コロナ禍での研修はすべてオンラインでした。事前課題では、自ステーションの訪問看護人材確保・定着、育成に関する方針や現状及び課題、必要な研修等を考えました。私は、管理者になり8年目ですが日々の業務に追われ自ステーションをゆっくり振り返る事ができていないことに気づきました。ステーションの現状を書面に書き出してみると課題は山積みでした。自地域では小規模ステーションが多く、スタッフの年齢層も高く若い人材がいない、求人しても応募がない等多くの課題がありました。

今回の研修では全国でのグループワークに向け、各自の課題を持ち寄り検討しました。その結果、同じ悩みを持つ管理者が地域で繋がっていくには、堅苦しいものではなく気軽に集い好事例を共有したり悩みを相談したり意見交換ができる場が必要であると考え『ミニ管理者カフェ』を企画しました。管理者が参加しやすいようICTの活用を考えています。また、定期的開催する事でひとつでも課題が解決でき「また頑張ろう」と思えるきっかけになると嬉しいです。管理者がイキイキと仕事をする事で活気あるステーションへ…と願っています。今回の研修を受講し、仲間と一緒に考え、地域の課題解決に取り組むことの楽しさを経験しました。

令和3年度 岡山県保健師助産師看護師 実習指導者講習会(特定分野)を受講して

訪問看護ステーションまいんど
管理者 伊丹 康恵

令和3年11月2日～12月21日の2か月間、ZOOMでのオンライン研修に参加させて頂きました。学生指導に関わる事が少なく分からない事ばかりでしたが、教育の基礎についての講義では、一方的な指導でなく学生自身が主体的に学べるよう教材や、意図的な関わりを持ちながらサポートしていく事が重要である事。グループワークでは実習指導計画を立案し、一つ一つ丁寧に考えていく中で学生に学んでほしい、知ってほしいという思いが溢れ、実習という機会を通してお互いを成長させる場となるのだという事を感じました。実際にこの作業を現場の中で実践できるか不安は残りますが、学生にとって在宅実習という場合は、病院内とは違い多くの気づきを与える事ができる場所であり、実習指導者の影響は大きいです。各校の実習目標や学生の特徴をとらえ、学校教員としっかりと連携をとりながら、訪問看護師に興味をもっていただけるような楽しい実習となるよう、実習指導にあたりたいと思います。

新任1～3年職員相談会・交流会に参加して

訪問看護ステーションママック 遠藤 和枝

長年勤めた病院から訪問看護への転職は、自分自身にとって最初で最後の大きなチャレンジでした。正直そのギャップの大きさに戸惑い、思い悩むことも多々ありましたが、今回の研修を受講し、年齢、職歴、環境は違っても、皆同じような気持ちを抱えながら、日々「目の前にいる人にいいケアを提供したい」という想いを持って臨んでいること、そんな想いを共有できたことが、今の私にとって大きな励みになりました。もちろん、新入職員を支える事業所スタッフの役割は大きいと思います。それに加え、現場での体験を同じ目線で振り返る機会としてこのような研修があれば、また新たな気づきがあり、次へのステップアップに繋がるのではないのでしょうか。

多職種との交流会に参加して

富田訪問看護ステーション 松島 稔

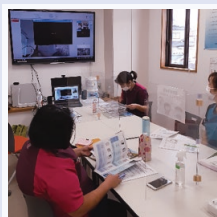
「この時代だからこそ地域連携」をテーマにハイブリット方式で70名以上の参加者でコロナ禍における退院支援・在宅移行支援の現状と課題についての実践報告やグループワークを通じて、具体的な話に触れる貴重な体験となった。認知機能の低下した方から医療的ケア児の病状把握や共通理解、在宅生活困難な状況にある方の支援に関わった多職種が1事例を通じて、職種ごとの課題や業務環境に影響を受けた様々な制限下での話がありました。入院当初より、意思決定支援から丁寧にに関わり、在宅復帰を実現に結び付けている様子を具体的に知り、ICTやアプリケーションを活用した、情報の管理や共有におけるイノベーションを垣間見る事の出来た、可能性を感じる交流会であった。

在宅看護知識・技術研修「トータルフットケア」を受講して

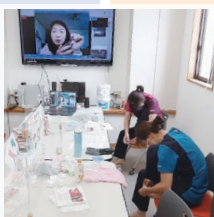
津山第一病院訪問看護ステーション
管理者 豊福 まゆみ

今回の研修では、足病変やトータルフットケアの方法や技術を学びました。どれも訪問看護師として必要な知識、技術です。フットケアは普段行っているケアですが、利用者の多くは高齢者であり、肥厚した爪や巻き爪でケアに難渋することがあります。研修では、具体的な技術やケアを映像で見る事ができ、すぐ実践できる内容でした。また、具体的なケアグッズを紹介してくださり、今後のケアに活かしたいと思いました。

オンライン研修も多くなってきました。今回は技術研修の理解できるか不安がありましたが、講師の先生が工夫をされていたわかりやすかったです。



1 オンライン研修
受講の風景



2 個人体験実習
「足部の観察」
講師の説明にしたがい、
自分の足を観察中



3 個人体験研修
「シャボンラッピング」

真庭市訪問看護ステーション
管理者 大西 直美

9月26日にオンライン研修「トータルフットケア・在宅における酸素療法・人工呼吸器装着者のケアの実際」を受けました。この研修は津山真庭地区活動の一環として計画されていましたがコロナ禍で延期となり2年越しで開催することができました。私は真庭地区理事として運営に参加させていただきました。

一緒に受講したスタッフが伝達講習を行い事業所で伝え即利用者様に実施したり、参加の業者さんに事業所で呼吸器の説明会を開催していただきこの研修からのご縁が広がっています。今後は災害時のガイドライン改定に沿いBCP作成に向け近隣ステーションとも連携しながら取り組んでいきたいと思っています。

(ゆあら)
訪問看護ステーション癒安楽(岡山A)
 管理者 田本百合子

初めまして。訪問看護ステーション癒安楽の私、管理者の田本と申します。昨年6月に新規で立ち上げており、早いもので7か月の月日が過ぎました。

さて、「癒安楽」の由来について少しお話しします。人は、どんな人生を送れば幸せを感じるのか？を考えた時に、【いかなる時も、互いに癒やし癒される環境であれば、不安が安心・信頼に変わる。その触れ合いを通して、毎日が楽しいと思える事】。この事こそが、生きていく中で、大切な事ではないかと思っております。訪問看護を軸にして全ての人々が誰かのお役に立ちたい一人を触れ合うことが楽しいと思えるような職場を目指し、多くの場所・場面に繋がっていくことを願って頑張っていきたいと思っております。

新設のステーション紹介

訪問看護ステーションWITH(新見・高梁)
 管理者 山田理絵

当ステーションは、過疎、独居、高齢化が進み人口減少に歯止めがかからない悪条件の地域にあります。それに伴い慢性疾患、多病者が多く、

- 認知症の増加などにも拍車がかかり、自身の病気に向き合うすべも分からない高齢者が大変多いと感じます。在宅での生活を営みながら、自身の病気と向き合い上手に付き合っていくことを支援していく必要性を強く感じ開設に至りました。
- 私自身は、心不全パンデミックの時代が到来することを踏まえて心不全認定看護師となりました。現在は、大半が心不全コントロールの方ですが、今までの経験や知識を駆使して地域の皆様のお力になれますよう同志とともに努力を重ねてまいります。
- 新設したばかりで、未熟者の為、ご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。

訪問看護 ICT 連携基盤整備事業 ~訪問看護ステーションのICT化に取り組みましょう~

ICTを活用して地域のネットワークを強化し、感染症や災害が発生した場合においても、効率的かつ安定的なサービス提供を可能にすることを目的とし、県の補助を受け、今年度より事業に取り組んでいます。

当会では、県が推進している「晴れやかネット拡張機能ケアキャビネット」を活用した訪問看護のICT化への取り組みを支援しています。

当会の研修や会議での活用から、地区活動、退院支援やサービス担当者会議に活用し、地域の事業所間で効率的な情報共有、訪問看護業務の効率化を目指しています。

【事業内容】

- 1) 訪問看護 ICT 情報連携に係る検討委員会の開催
- 2) ICTを活用した訪問看護ステーションの連携強化
- 3) モデル地域でのICT情報共有ツールを活用した訪問看護事業所間や多職種間での連携

【モデルの構築】

現在、当会会員の40%の事業所が晴れやかネットに加入し、活用しています。

- 入会金：今年度は免除
- 利用料：1人目1,800円/月(ライセンス料含む) 2人目以降500円/月
- ライセンス料：端末1台300円/月

晴れやかネットへの加入については、当会事務局にご相談ください。



簡単にできる元気が出るレシピ

王慈園訪問看護ステーション
大森七奈子

1 餃子スープ(調理時間 15分 128kcal)

~材料(2人分)~

- 冷凍餃子... 4個
- 白菜..... 2枚
- 人参..... 4分の1
- 生姜..... お好みの量
- 鶏ガラスープ、塩、こしょう...お好みの量
- 水...適量

~作り方~

- ①白菜と人参を食べやすい大きさにカットする。
- ②生姜は皮をむき、千切りにする
- ③ ①を浸かるくらいの水で、やわらかくなるまで茹でる
- ④生姜と調味料を加え、味見して、自分好みの味になれば出来上がり

★ポイント 生姜に含まれるジンゲロールで血行促進して身体が温まります。

2 蓮根と長芋のつみれと33あんかけ(調理時間 20分 359kcal)

~材料(2人分)~

- 蓮根..... 5cm分(70~80g)
- 長芋..... 3cm分(40~50g)
- にんじん... 小 2分の1(20~30g)
- 鶏ミンチ... 100g
- 卵... 1個 片栗粉... 大さじ1(つなぎ)
- 出汁や醤油等で下味はお好みで
- あん(さとう、醤油、酒、みりん、出汁、片栗粉適量、お好みでエノキを少量)

~作り方~

- ①蓮根、長芋、にんじん、生姜は皮をむいて、すりおろし鶏ミンチ、卵、片栗粉と一緒にボールに入れ混ぜる。
- ②出汁等で下味を付ける。(お好みでみじん切りにした蓮根を入れると食感が変わります。)
- ③熱したフライパンに、ごま油を入れ、①をお玉で流し入れ、両面焼く
- ④調味料にえのき等を入れ、あんを作る
- ⑤焼いたつみれにあんをかけて、出来上がり

★ポイント 生姜を入れることで風味が出ます。軟らかめにするとう齢の方も食べやすくなります。

編集後記

令和になり3年が過ぎました。新型コロナウイルス感染症の第6波が叫ばれる中、マスクやアイガードの着用や黙食が慣れっくなり、相手の表情が見えない分、気持ちを推し量ったりと気を遣う場面も多くあるかと思っております。今回は訪問看護に従事する皆様に、心と体が暖かくなるものをお届けしたいとの広報委員の思いから、ショウガを用いたレシピを紹介させていただきました。皆様の心と体が健康であることが、利用者さんの健康を支える皆様にとって大切なことです。今年こそはマスクを外してみんなが笑顔になれる、そんな日が一日でも早く訪れますように願っています。

広報委員一同